

様式（細則 5-2）

平成 26 年 9 月 30 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 飛野 弘二



調査研究活動報告書

下記のとおり会派視察を行ったので、その結果を報告します。

会派 創風会

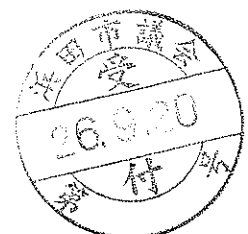
記

1. 期 間 平成 26 年 8 月 18 日～8 月 20 日

2. 視察又は訪問先
 - (1) 長崎県大村市 おおむら夢ファームシュシュの取組
内容 自然・農業体験型観光と地域の担い手連携について
 - (2) 熊本県球磨郡山江村 時代（とき）の駅むらやくば
内容 グリーンツーリズムと地域連携について
 - (3) 熊本県人吉市 人吉市役所、農家レストラン「ひまわり亭」
(ひまわり亭と人吉・球磨グリーンツーリズムの取組について)
内容 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」
 - (4) 福岡県太宰府市 九州国立博物館
内容 文化財修復と和紙の役割について

3. 参加者 串崎利行、野藤薫、上野茂、飛野弘二、布施賢司、平石誠
渋谷幹雄、西田清久

4. 調査経費 30,786 円



5. 各視察先の研修内容

【農業生産法人 有限会社シュシュ】代表取締役 山口成美氏

〈1〉視察に至った経緯

浜田市は豊かな自然に恵まれ、様々な農産品や海産物が有ります。

この資源を有効に活用して、さらなる交流人口の増大と地域の活性化を願い、『地域農業の活性化と後継者の育成』を目指している おおむら夢ファーム シュシュの取組みを視察した。

〈2〉研修内容

① 施設見学[長崎県大村市弥勒寺町486]

「おおむら夢ファーム シュシュ」

② 山口成美氏と意見交換

視察当日は、大雨洪水警報も発令される状況の中、レンタカーで浜田市を出発しました。

昼前におおむら夢ファーム シュシュに到着、園内のぶどう畑のレストランを見学、平日にもかかわらず多くのお客様で賑わっていました。

レストランはバイキング形式で大人 1300 円で食べ放題、地域の様々な食材を提供し創意工夫が見られた。

地産地消、農業の6次産業化を目指して、周囲には各種収穫体験施設や農林水産物直売所（新鮮組）、パン工房、洋菓子工房、シャーベット工房など、若者や家族連れを意識したオシャレな建物が連なっている。

山口氏は大村市農協で営農指導員をしていたが、平成2年農協を退職し専業農家になった。高齢化による後継者不足、農地の荒廃への危機感から地区の有志40名と「福重地区農業農村活性化協議会」を設立、その中の8名の専業農

家で、ビニールハウスの小さな農産物直売所「新鮮組」を始めた。

様々なアイデアで、常に前向き、モノを売るのではなく夢を売る、“年中夢求”と熱く語って頂いた。

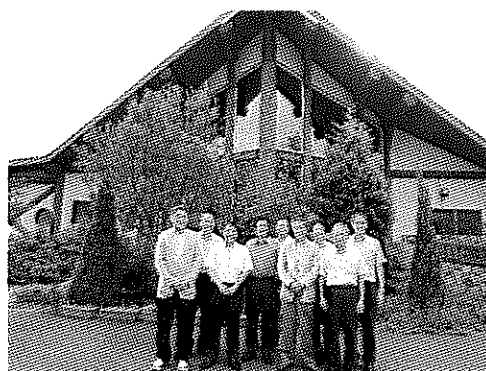
〈3〉所感（まとめ）

物売るのではなく夢を売ると言われるように、商品のネーミングなどもひとひねりされている。特にシュシュの従業員による独特の字体によるあらゆる掲示物に吸い込まれる想いがした。人との出会いを大切にして、大村市のグリーンツーリズムの民泊体験も応援されている。

行政、関係機関とも連携し、新たな商品開発も視野に入っているようでした。



シュシュのオリジナル字体



おおむら夢ファームシュシュ

【球磨郡山江村】山江村 内山慶治村長 山江村議会 松本佳久議長

〈1〉視察に至った経緯

九州の人吉・球磨地方はグリーンツーリズムが盛んであると聞き、海山自然豊かな石見地域・浜田市の参考になればと最初に山江村の取組を視察しました。

〈2〉研修内容

- ① グリーンツーリズムと地域連携について（時代（とき）の駅むらやくば）にて

山江村は現在、人吉・球磨グリーンツーリズム協議会に参加しているが、地

域活性化に平成4年ボンネットバスを復活させ、各地からボンネットバスの大会を開催し地域活性化を図った。その後、グリーンツーリズムで特産品の栗を収穫する農業体験や、栗の加工品作りなど交流人口の増大を図った。

平成15年第1回グリーンツーリズムネットワーク全国大会（熊本）参加をきっかけに、地域からの様々な体験メニューが提案された。

また本場イギリスのグリーンツーリズムを研修する為、村から3名派遣した。

農業体験、収穫、加工の中で地域の食への関心も高まり「食を通じた交流」も始まった。

旧役場を「時代（とき）の駅むらやくば」レストランとして改装オープンした。

〈3〉所感（まとめ）

地域活性化のため議会共々奮闘されている様子がみうけられた。グリーンツーリズム体験研修も受け入れておられ、当日も関東の女子大生2名が参加され地元住民からも温かく見守られているとの声もあった。

小さい村だが、村長が先頭に立って地域住民を巻き込んで、村おこしのための奔走されていて「一生懸命」さが伝わって来た。



村長、議長、大学生他



時代の駅むらやくば（レストラン）

【熊本県人吉市】人吉・球磨グリーンツーリズム協議会（人吉市役所）

農家レストランひまわり亭（本田節氏）と農家民泊

〈1〉視察に至った経緯

九州での先駆的な取組と言われる人吉・球磨グリーンツーリズム協議会は10市町村による協議会である。この取組や、中心的な存在の本田節さんのお話を聞く事と、農家民泊によりグリーンツーリズムの目的、「豊かな自然、歴史、文化などの多面的な資源を活用しながら、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」を視察研修した。

〈2〉研修内容

① 「女性の自立とグリーンツーリズムの取組による地域活性化」

農家レストラン『ひまわり亭』代表 本田 節 氏

② 農家民泊

最初に人吉市役所において人吉・球磨グリーンツーリズム協議会事務局の山本次長より、人吉市の説明と協議会の今日までの経緯と概要説明を受けた。

この協議会の設立経緯は、平成15年より人吉市を含む10市町村が構造改革特区「森林の郷 農林業げんき特区」としての認定を受けた事を契機に、都市農村交流事業への取組がなされた。

平成17年度にはこの取り組みに参加した農家の方を中心に「人吉市グリーンツーリズム推進協議会」が設立、農家民泊が始まった。

当初「田舎に泊まろう農業体験」として小学生の受入れをスタート、川遊びや虫とりなどで都会の子供達が感動する姿を見て、豊かな自然を再確認する事になった。

この農家民泊の為の研修の過程で、それぞれの地域と特色有る料理を持ち寄り、食の交流会（研修）を、ひまわり亭で開催する事になった。

市役所にて説明の後、ひまわり亭に移動し本田節氏より話を聞いた。

「ひまわり亭」は地産地消、食の交流拠点として立ち上げた。食、農を地域資源とした拠点、郷土の家庭料理をテーマにしている。

地域の高齢者の知恵が家庭料理に詰まっている。これがお金に、おこずかいになる。すると地域の中で自立出来る。ボランティアでは続かない。

怒涛のような、本田節氏の想いを聞く一方で有ったが、地域の魅力やそこに住む人の魅力がストレートに響いた研修で有りました。

その後、農家民泊のお母さん方がお迎えに・・・二つのグループに分れそれぞれの農家に向かい、夜が更けて行きました。

〈3〉所感（まとめ）

地域の高齢化、農業の衰退に危機感を持ち、地域の活性化を模索する手段としてグリーンツーリズムにたどり着いた。

何にもないと思っていた田舎に、人が来る。当り前の食べ物に感激し、人の温かさに感動する。それが幾らかのお金になり、生き甲斐になる。

一度来た客は離さない。必ず2度は来る「おもてなし」それは飾りでも上手でもなく心あるもてなし、家族ぐるみのおもてなし、そして笑顔だった。まさしく、グリーンツーリズムの先進地。プロの集団だった。一方、農家レストランとして全国的に知られる「ひまわり亭」は年間5万人が訪れるすぐれもの。経営方針もチームワークも半端じゃない。まさにウーマンパワーそのものだった。



人吉市役所にて



ひまわり亭にて、本田節氏

【福岡県 太宰府市】九州国立博物館 学芸員

国宝修理装演師連盟 坂田理事長

〈1〉視察に至った経緯

ユネスコ文化遺産である浜田市三隅町の石州半紙は、国宝などの文化財の修復には欠かせない。

この度、会派視察の帰途に九州国立博物館に立ち寄り、修復の現場で視察研修を行った。

〈2〉研修内容

① 「文化財修復と和紙の役割について」

国宝修理装演師連盟 坂田理事長が、当日九州博物館の滞在されており、お話を聞く事が出来た。

修復現場は、気温や湿度の管理と、災害から文化財を守る為の、設計になっていて、普段は見る事の出来ないものでした。

また大学で文化財の修復を専攻している学生も、実習に来ていて、修復の各段階の説明を聞く事が出来ました。

〈3〉所感（まとめ）

石州半紙が活用されている先端現場を目のあたりにして感動と喜びが込み上げてきた。石州半紙の使命を実感するとともに高品質の維持、安定供給の責務を強く感じた。



坂田理事長と修復の現場



国宝修理装演師連盟の職員